

美術科

西澤 明

1. ESDの取り組みにあたって

(1) ESDとは何か

ESDという言葉が、学校教育をはじめあちこちで聞かれるようになってきている。ESDは「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）」の略称で、その必要性について、内閣官房に設置されたESD関係省庁連絡会議は、「現在の世代における大量生産、大量消費、大量廃棄型の経済成長と人口増加に伴い、地球上では、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等が進んでいます。人類が、将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保するための基盤となる環境は、年々、損なわれつつあります。このため、1987年、『環境と開発に関する世界委員会』は、『Our Common Future』において、持続可能な開発（将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満足させるような開発）を訴えました。持続可能な開発のためには、地球上で暮らす我々一人ひとりが、環境問題や開発問題等の理解を深め、日常生活や経済活動の場で、自らの行動を変革する必要があります。そのための鍵となるのが、「持続可能な開発のための教育」です。」としている¹。

(2) ESDの構成概念は何か

ESDを学校研究で進めるにあたって、国立教育政策研究所教育課程研究センターがまとめたリーフレット資料²を実践計画の基本とした。同資料では「持続可能な社会づくり」の構成概念を、自然・文化・社会・経済などの「人を取り巻く環境」と、集団・地域・社会・国などの「人の意志や行動」の2つに大別し、さらにそれぞれを構成する下位概念の例として、前者については「Ⅰ多様性、Ⅱ相互性、Ⅲ有限性」、後者については「Ⅳ公平性、Ⅴ連携性、Ⅵ責任性」を挙げている。「人を取り巻く環境」という構成概念から、ESDイコール自然破壊や有限資源などの環境問題を扱う学習活動と捉えられがちだが、それはあくまでも学習活動のテーマ、題材の一つであり、ここで挙げられている環境とは、文化なども含むもう少し広義なものであることを確認しておきたい。

(3) ESDの視点に立った学習指導の目的は何か

上記資料では、ESDの視点に立った学習指導の目標について、「教科等の学習活動を進める中で『持続可能な社会づくりにかかわる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける（問題解決学習）』ことを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う。」としている。注意したいのは、持続可能な社会とは何かという知識理解が主たる目的ではなく、その形成者としての資質や価値観を養うことが目的だという点である。

(4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度は何か

同目標中の「能力や態度」については、重視する能力・態度として、「①批判的に考える力」「②未来像を予測して計画を立てる力」「③多面的、総合的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」「⑤他者と協力する態度」「⑥つながりを尊重する態度」「⑦進んで参加する態度」の7つの例が挙げられている。これらの能力・態度は決して目新しいものではない。それは、これまでの学習指導要領の改訂で育成が求められてきた、例えば「思考力・判断力」であり…①②③、「表現力」であり…④⑤、

¹ 「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議『国連持続可能な開発のための教育の10年（2005～2014年）ジャパンレポート』（2014.10）

² 国立教育政策研究所教育課程研究センター『ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み』

「知識・技能を活用する力」であり…⑥、「主体的に学習に取り組む態度」…⑦であると捉えることができるだろう。すなわち、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度とは、これまでも学校教育で育むことが求められている「確かな学力」の育成であり、「生きる力」の育成であることを確認しておきたい。

2. ESDと学習目標

(1) 美術科で特に重視したい「ESDの視点に立った学習活動で重視する能力・態度」

前章の(4)で示した7つの「ESDの視点に立った学習活動で重視する能力・態度」の中で、美術科の学習活動として取り組みやすいものは、「①批判的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」「⑦進んで参加する態度」ではないかと考えた。その理由としては、①については、表現活動で創意工夫の段階で求められる思考力、すなわち、個々の経験や、自分たちを取り巻く様々な情報、知識を整頓し、選択するために必要な考え方の一つであること、④については、作品や言語など様々な手段で行われる表現活動そのものが、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーションであること、そして⑦については、美術の活動の基盤でもある、自己表現と他者理解に必要な「主体的な態度」の育成が、「進んで参加する態度」の育成にも結び付くと考えられることによる。

(2) ESDに関する教科の目標と評価規準

ESDの視点に立った学習指導を教科で行うにあたっては、これまで行ってきた「確かな学力の育成」を図る学習活動を基本とし、その学習活動を通して「持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う」ことが目標である。

教科における「確かな学力の育成」は、基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用、活用に必要な思考力・判断力・表現力の育成、思考力・判断力・表現力の基盤になる言語活動の充実を念頭に置きながら計画する必要がある(図1)。これまでもその実現のために教材(教具・教授)の整頓を行い、授業の実践を積み重ねてきており、その教材、授業の延長上でESDの視点に立った学習活動を行うことにした。その具体的な学習活動の方向については、次章でまとめた。

(3) 思考力・判断力・表現力との関連について

前年、平成25年度の研究を継続し、学習指導要領に示された教科の目標、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」から「豊かな感性の育成」に焦点を当てることにした。平成25年度の研究では、さまざまな表現効果からイメージを受け取る「感じ取る感性」と、表現効果を活用して制作意図のイメージを可視化する「表現する感性」の、二つの感性の場面を意識した学習活動を行うことで、思考力、判断力、表現力が深まっていく様子が明らかになっている。

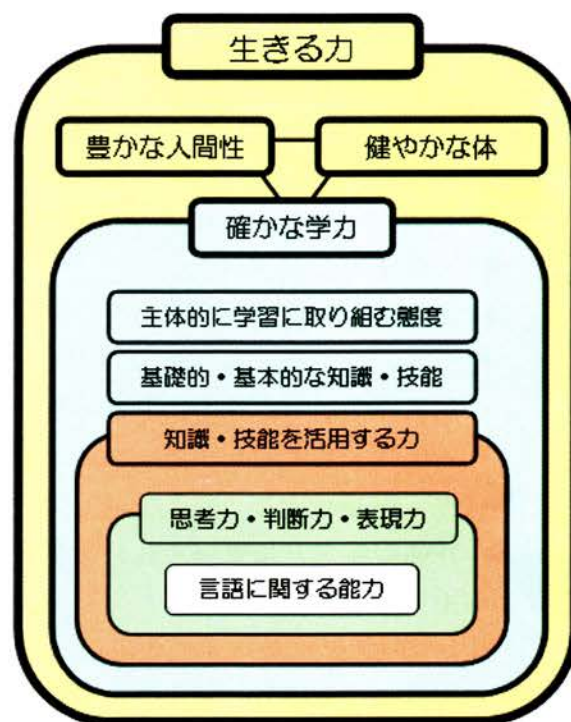


図1 確かな学力の整頓 (2014, 西澤)

3. 学習内容とつながり

ESD の視点に立った学習活動については、教材や各教科等の内容的な「つながり」を意識しながら、以下の ABCD の 4 つの方向を考え、順次、計画、実践を進めることとした。

- A. ESD に関わる内容を表現活動における制作のテーマにする。例えば「切り紙」の単元において、制作のテーマを「環境問題」とすることで、その「Ⅰ多様性」「Ⅲ有限性」「Ⅵ責任制」についての知識理解を深めるとともに、「環境問題」を扱う他教科等と教材の内容の「つながり」を図る。
- B. 表現活動および鑑賞活動において扱う題材やテーマを、他教科の題材や学習事項と結びつける。例えば国語科の題材（文芸作品における心情や情景）、音楽科の題材（楽曲から受けるイメージ）、体育科の題材（運動における人体の動き）等を美術科の題材やテーマとすることで、教科間のつながりを図り、「Ⅱ相互性」「Ⅴ連携性」の意識を育てる。
- C. 表現活動および鑑賞活動における学習内容と、他教科の学習内容を結びつける。例えば、デザイン・工芸領域における機能性、ユニバーサルデザイン、木材加工等についての学習を技術・家庭科（技術分野）と、手本やモチーフを拡大・縮小して転写する活動における基準枠の扱いや位置についての学習を数学科（座標、相似）と、鑑賞活動における西洋と日本の文化の違いや相互の影響についての学習を社会科（ジャポニズム、仏像彫刻）、音楽科（印象派）と結びつける等の「つながり」を図ることで、「Ⅱ相互性」「Ⅴ連携性」の意識を育てる。
- D. 表現活動および鑑賞活動における学習内容に関する外部の専門家をゲストティーチャーとしてお招きしてお話を伺う。例えばユニバーサルデザインを専門とする大学教授、和菓子職人といった方の指導を仰ぐことで、他の学校種や社会とのつながりを図り、「Ⅱ相互性」「Ⅴ連携性」の意識を育てる。

4. 実践例

(1) 第 3 章で示した、「ESD の視点に立った学習活動の 4 つの方向」のうち A

◆ 単元名 切り紙で表現する“環境問題”

◆ 実施学年 第 3 学年

◆ 目標（主体は生徒）

- 主体的に活動に取り組む。 【関心・意欲・態度】
- 感性を働かせ、豊かに発想・構想する。 【思考・判断】
- 基礎的・基本的な知識・技能を理解、習得し、表現に活用する。 【技能】
- 作家作品や自身の制作を通して、表現技法のよさを味わう。 【技能】

◆ 評価の観点と規準（主体は教師）

- 主体的に活動に取り組んでいる。 ① 関心・意欲・態度
- 1 つのテーマから 4 つの場面を豊かに発想し、構想をまとめられる。 ② 発想・構想の能力
- 切り紙の基礎的・基本的な知識・技能を理解し、表現に活用できる。 ③ 創造的な技能
- 切り紙の表現技法のよさ、作品のよさを味わうことができる。 ④ 鑑賞の能力

◆ 指導にあたって

教材観（教材のつながりについて）

- 切り紙の制作を通して、「切る、色彩・形を構成する、貼る」といった基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、学習指導要領の共通事項に示された「形、色彩の性質や感情の理解、その特徴をもとに対象のイメージをとらえる」力の育成を図る。

- 鑑賞活動としてマチスの切り紙「JAZZ」を取り上げ（図2）、表現における「自由な色・形」「平等な色」「余白の美」という観点の理解と感性の育成、さらに表現活動におけるその活用を図る。
- ESDの視点に立った学習指導として、作品のテーマを“環境問題”とする。10のテーマ（図3）から1つを選び、選んだテーマから4つの場面を発想・構想する段階で、ESDの構成概念である「Ⅲ有限性」の理解を図り、作品として表現する段階で、「Ⅴ連携性」「Ⅵ責任制」を喚起する発信の視点を育む。
- “環境問題”の学習は他の教科等や他の学年・学校種でも扱われ、実生活・実社会ともつながっていることを意識させる。今回は社会科の公民分野とのつながりを意識した。



図2 マチスの切り紙「JAZZ」より抜粋

生徒観・指導観（思考力・判断力・表現力との関連と指導について）

当該学年の子どもたちは、非常に明朗で素直である。学習活動に対する関心・意欲も高く、課題が明確な場合には、構想し、まとめる力（表現力）に優れた成果が期待できる。しかし、自ら課題を見つけ、豊かに発想する力（思考力、判断力）には弱さがあるように思われる。

本教材の指導にあたっては、第2次の「抽象的なテーマから4つの場面を発想する」段階と、第3次の「それぞれの場面を形や色彩、画面の構成で視覚化する」段階の2つの段階で、「思考力、判断力の育成」を図ると同時に、教科の目標である「豊かな感性の育成」を図りたいと考えた。

5分でわかる地球の現状シリーズ

特定非営利活動（NPO）法人 ネットワーク「地球村」
homepage: www.chikyumura.org より引用

地球環境の実態は、一般に知られているよりはるかに深刻です。国連報告、政府の環境白書などの標準データに基づいて地球の現状を、世界と日本の事実を項目ごとに5分でわかるようにまとめました。わたしたちは今、何をすべきなのか・・・一緒に考えていきましょう！



<p>ごみ問題</p>  <p style="font-size: x-small;">日本は、企業の製造責任や市民のごみの有料化などがないため、世界でもっともごみ焼却炉が多い国です。先進国では、企業の製造責任やごみの有料化により、ごみを大幅に削減しています。</p>	<p>地球温暖化</p>  <p style="font-size: x-small;">地球温暖化の主な原因である二酸化炭素（CO2）は、電気やガス、ガソリンや灯油など、私たちの便利で快適なライフスタイルによって大量に発生しています。</p>	<p>オゾン層破壊</p>  <p style="font-size: x-small;">オゾン層には有害な紫外線を吸収する重要な作用があり、もしオゾン層がなくなれば陸上の生物は死滅します。今、人類が作り出した化学物質フロンによって危険な状況になっています。</p>	<p>森林破壊</p>  <p style="font-size: x-small;">森林は水、食糧、空気を作り出し、私たちに欠かせない大切なものです。しかし、乱開発、乱伐によりすでに世界の原生林の76%が失われました。</p>
<p>生物種の絶滅</p>  <p style="font-size: x-small;">リョコウバト、ニホンオオカミ、オオウミガラス・・・この200年ほどの間に、多くの生物が地球上から姿を消しました。トキ、アホウドリ、パンダ、トラ、サイ、ゴリラ、ゾウ・・・私たちのよく知るこうした仲間たちも今まさに絶滅の危機に瀕しています。</p>	<p>人口爆発と貧困</p>  <p style="font-size: x-small;">この100年間で人口は急激に増えています。人口爆発はなぜ起こるのでしょうか？人口が増えるるとどのような問題が起きるのでしょうか？</p>	<p>食糧問題</p>  <p style="font-size: x-small;">日本では、日常生活の中で食糧がたくさんあるため、日頃は食糧危機を実感することはありません。しかし、一方で世界には飢饉で苦しむ人がたくさんいます。世界の現状はどうなっているのでしょうか？</p>	<p>エネルギー問題</p>  <p style="font-size: x-small;">私たちの生活は石油・石炭に依存し、年々その消費量は増加しています。何億年もかけてつくられた資源は今、枯渇の危機をむかえようとしています。</p>
<p>水資源の危機</p>  <p style="font-size: x-small;">水はすべての生命の源。ところが今、わたしたちはその大切な水を大量に使い、汚し続けています。世界の水資源は枯渇寸前です。</p>	<p>砂漠化</p>  <p style="font-size: x-small;">「砂漠化」とは、「土壌が植物などが生育できないほど劣化すること」です。それは「食糧問題」にもつながります。日本でわたしたちが考えているよりも砂漠化は深刻な問題なのです。</p>		

図3 生徒配布資料（環境問題の10のテーマ）

◆ 指導計画（総時数 8 時間）

第 1 次	導入	(2 時間)
第 1 時	鑑賞 ビデオ「色彩の画家マチス」	
第 2 時	本単元の説明と習作制作	
第 2 次	構想	(1 時間)
第 3 次	制作	(4 時間)
第 4 次	まとめ	(1 時間)

◆ 完成した生徒作品と解説・感想 ※4 枚の作品は左上から右下に向かって No.1～No.4

選んだ課題問題のテーマ 森林保護

No.1 タイトル 自然の調和
 自然の調和、森林保護の大切さを表現しています。色鮮やかな花と緑の葉が、自然の美しさを表現しています。



No.2 タイトル 自然の調和
 自然の調和、森林保護の大切さを表現しています。色鮮やかな花と緑の葉が、自然の美しさを表現しています。

No.3 タイトル 自然の調和
 自然の調和、森林保護の大切さを表現しています。色鮮やかな花と緑の葉が、自然の美しさを表現しています。



No.4 タイトル 自然の調和
 自然の調和、森林保護の大切さを表現しています。色鮮やかな花と緑の葉が、自然の美しさを表現しています。

選んだ課題問題のテーマ 動物の絶滅

No.1 タイトル 動物の絶滅
 動物の絶滅、森林保護の大切さを表現しています。色鮮やかな花と緑の葉が、自然の美しさを表現しています。



No.2 タイトル 動物の絶滅
 動物の絶滅、森林保護の大切さを表現しています。色鮮やかな花と緑の葉が、自然の美しさを表現しています。

No.3 タイトル 動物の絶滅
 動物の絶滅、森林保護の大切さを表現しています。色鮮やかな花と緑の葉が、自然の美しさを表現しています。



No.4 タイトル 動物の絶滅
 動物の絶滅、森林保護の大切さを表現しています。色鮮やかな花と緑の葉が、自然の美しさを表現しています。

選んだ環境問題のテーマ **オゾン層の破壊**

No.1 タイトル **ハッピー**
 やわらかな太陽の光の下では人間も植物もいっしょに笑っています。
 ハッピーな世界を表現したために、空はカラッと青々としています。

No.2 タイトル **フロン**
 冷蔵庫や自動販売機などから発生するフロンが原因でオゾン層が破壊されています。
 地球を色づけてきました。
 フロンガスは太陽の有害な紫外線を吸収してくれるオゾン層を破壊します。

No.3 タイトル **シミ**
 サンガラスの曇りやシミ、シミ。海外の子供達が公園で遊んでいる姿を思い出しています。
 多くの気候国では特に子供達に「直射日光は10分以内、帽子、セロロンソー、サンガラスも必ず着用を呼びかけています。」

No.4 タイトル **死滅**
 元気がない動物や枯れている植物の様子を思い出しています。
 No.1とは対照的な暗い世界で、太陽は攻撃的に笑っています。
 オゾン層が破壊されれば生物は死滅します。



(2) 第3章で示した、「ESDの視点に立った学習活動の4つの方向」のうちB

- ◆ 単元名 鉛筆で表現する気持ち「おとなになれなかった弟たちに
- ◆ 実施学年 第1学年
- ◆ 目標（主体は生徒）

- それぞれの活動の場面において、主体的に活動に取り組む。 【関心・意欲・態度】
- イメージや感情を描画用具（鉛筆）による表現効果と結びつける。 【発想・構想の能力】
- 鉛筆の基礎的・基本的な知識・技能を理解、習得し、表現に活用する。 【創造的な技能】
- 絵や言葉からイメージや感情を想起し、表現技法の工夫やよさを味わう。 【鑑賞の能力】

- ◆ 評価の観点と規準（主体は教師）

- それぞれの活動の場面において、主体的に活動に取り組んでいる。 ① 関心・意欲・態度
- イメージや感情を鉛筆の表現効果と結びつけることができる。 ② 発想・構想の能力
- 鉛筆の基礎的・基本的な知識・技能を理解、習得し、表現に活用できる。 ③ 創造的な技能
- 絵や言葉からイメージや感情を想起し、表現技法の工夫やよさを味わうことができる。 ④ 鑑賞の能力

- ◆ 指導にあたって

教材観（教材の「つながり」について）

- 基本的かつ重要な描画用具である鉛筆について、その技法と表現効果に関する知識・技能の習得を図る教材である。目に見えない物や感情・気持ちをテーマに表現活動を行うことで、学習指導要領の共通事項に示された「形、色彩の性質や感情の理解、その特徴をもとに対象のイメージをとらえる」力の育成を図れると考えた。
- ESDの視点に立った学習指導として、他の教科で取り上げる教材とつなげる試みである。国語科の教科書に取り上げられている文芸作品、「おとなになれなかった弟たちへ……」を、鉛筆の基礎的・基本的な知識・技能の学習を行う教材における、鑑賞活動と表現活動の二つの場面の題材として扱うことにした。
- 「おとなになれなかった弟たちへ……」は、戦時下という時代背景と、その時代に生きた作者の

実体験に基づいた話である。そうした意味では、ESDの「人の意志・行動に関する概念」に関わるものと考えられる。その重い内容は、鑑賞活動において、子どもたちの真剣な態度や感情を引き出しやすいものである。

生徒観・指導観（思考力・判断力・表現力との関連と指導について）

- 子どもたちは非常に明朗かつ素直である。教師との信頼関係もできており、美術の授業に対する関心・意欲も高い。そのため、課題が明確な場合には、構想し、まとめる力（美術科における表現力）に優れた成果が期待できるが、一年生ということもあり、知識・技能や、自ら課題を見つけ、豊かに発想する力（思考力、判断力）については、まだ浅く表面的な様子が見える。
- 鑑賞活動において、漠然と色や形からイメージや感情を受け取るだけでなく、事前に学習した知識・技能（本単元の場合は鉛筆の表現技法や視覚的効果）と結びつけて考えたり（思考力）、それを伝え合ったり（表現力…言語活動）すること、表現活動において、事前に学習した知識・技能を意識しながら発想・構想したり（思考力・判断力）、実際に制作に生かしたり（表現力）することで、「教科の思考力・判断力・表現力」の育成を意図している。それは、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度における「③多面的、総合的に考える力」、「④コミュニケーションを行う力」にもつながると考えた。さらに、国語科の学習で作品に対する理解を深めて鑑賞活動、表現活動に臨むことで、それらの能力の育成はより一層深まると考えた。

◆ 指導計画（総時数9時間）

第1次 導入（鉛筆の基本的な技法と効果） (3時間)

- ナイフでの削り方、硬度の種類、1本の線でできること
- 複数の線でできること、描く前後でできること
- 技法・効果で伝える感情・イメージ

第2次 鑑賞「おとなになれなかった弟たちへ…」挿絵から (1時間)

第3次 制作「おとなになれなかった弟たちへ…」本文から (4時間)

第4次 まとめ (1時間)

◆ ESDに関わる取り組みのポイント

- 国語科の単元「大人になれなかった弟たちへ…」の原作絵本には、全17点の挿絵が描かれている。教科書で使われている2点の挿絵以外から新たな2点（図4）を取り上げ、それぞれ異なった以下の観点で鑑賞活動を行った。

A… どんな鉛筆の技法と効果が使われているかを考え、実際に同じような効果が作れるかを試し、その効果は挿絵にどんなイメージを加えているかを考える。

B… 描かれた空、雲、山、道、人は、鉛筆のどんな技法・効果によって描かれているかを考え、その効果によってどんな色、空気感を感じるかを考える。

- 子どもたちは、すでに国語の授業で同作品を全文読んでおり、その内容についてある程度の理解をしている。ここでは提示した

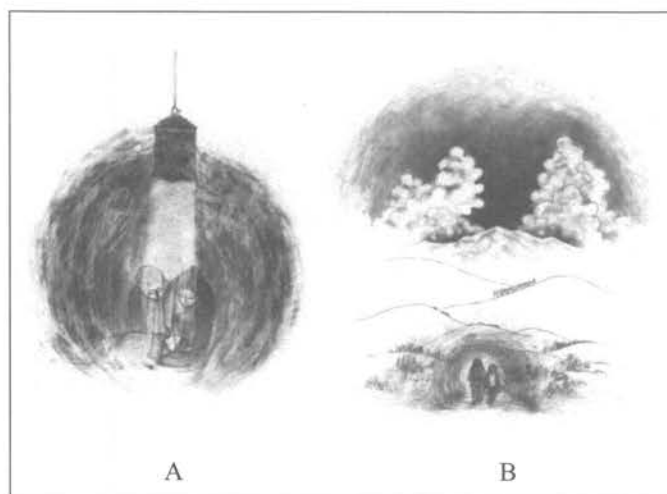


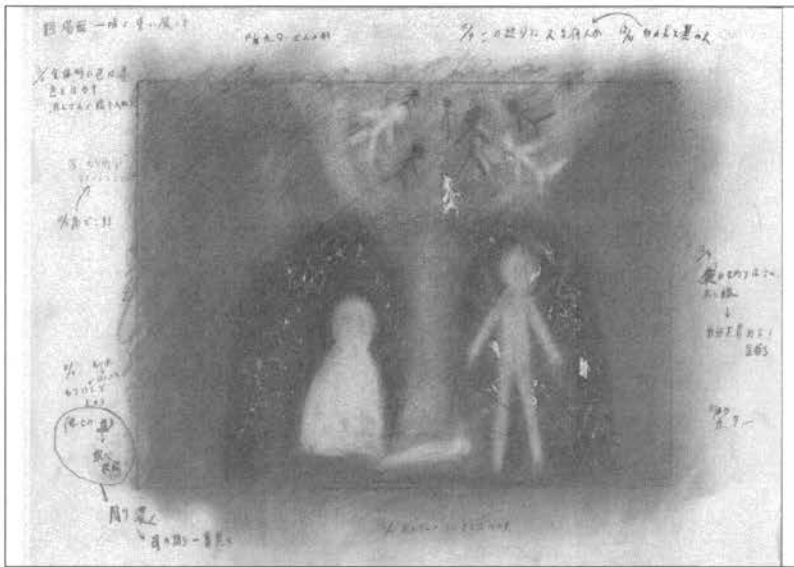
図4 生徒配布資料（鑑賞活動用）

挿絵の具体的な場面を特定することはせず、その場面の理解を深めることも目的としない。あくまでも、挿絵のみから感じ、受け取るものを大切にするように心がけた。

- ・ 漠然と色や形からイメージや感情を受け取るだけでなく、事前に学習した鉛筆の表現技法や視覚的効果と結びつけて考えることで、思考力の育成を意図し、考えを伝え合うことで表現力の育成を意図している。それは、ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度における「③多面的、総合的に考える力」、「④コミュニケーションを行う力」にもつながると考えた。

さらに、国語科の学習で、作品に対する理解を深めて鑑賞活動に臨んでいることで、それらの能力の育成はより一層深まると考えた。

◆ 完成した生徒作品と解説・感想



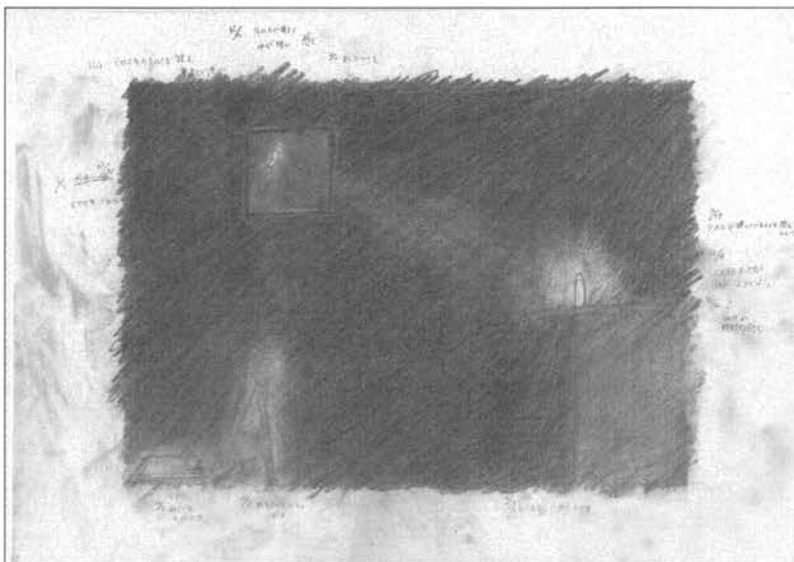
作品の解説 何を表現したか、そのためにどんな鉛筆の技法・効果を使ったか
 暗い電気の下の夜、ヒロユキが死にました。弟は静かに息をひき取りました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

制作の流れ 作品制作が進む中で変化したこと、どう変化したか
 最初は、暗い電気の下の夜、ヒロユキが死にました。弟は静かに息をひき取りました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

感想など 今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど
 鉛筆で描くことの面白さや、色や形の表現の大切さ、そして、自分の考えを表現することの大切さを感じました。

ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿にふくませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひき取りました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。



作品の解説 何を表現したか、そのためにどんな鉛筆の技法・効果を使ったか
 暗い電気の下の夜、ヒロユキが死にました。弟は静かに息をひき取りました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

制作の流れ 作品制作が進む中で変化したこと、どう変化したか
 最初は、暗い電気の下の夜、ヒロユキが死にました。弟は静かに息をひき取りました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

感想など 今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど
 人物や物の形の表現の大切さや、色や形の表現の大切さを感じました。

でも、僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。それも、何回も……。

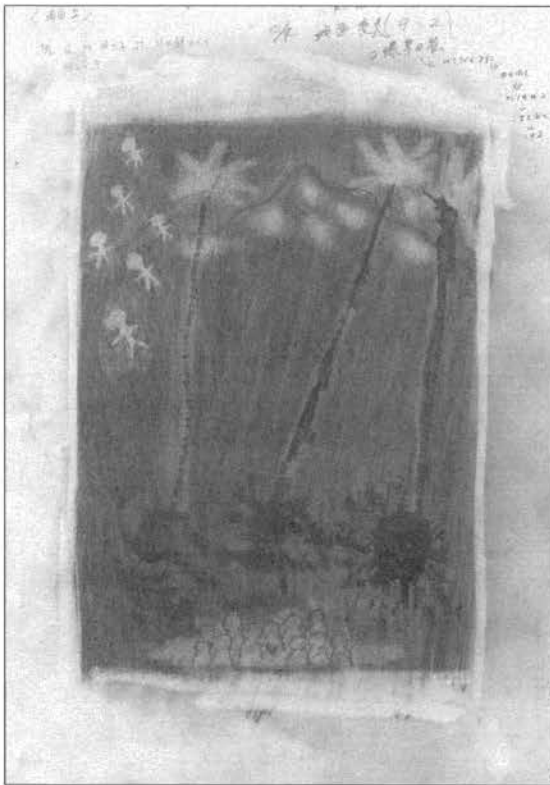


作品の解説 母を表現したが、そのためにどんな鉛筆の技法・効果を使ったか
 教科書のページの行目線や定規の目線や定規の母もせきに描きこいた時の気持ちを表現した。また母の顔の下の部分に描きこいた母の母は母を悲しめて泣きたい気持ちを表現した。また母の顔の下の部分に描きこいた母の母は母を悲しめて泣きたい気持ちを表現した。また母の顔の下の部分に描きこいた母の母は母を悲しめて泣きたい気持ちを表現した。

制作の流れ 作品制作が進む中で変化したこと、どう変化したか
 最初は女の存在を表現した。しかし母を表現しようとした。また母の存在を表現した。しかし母を表現しようとした。また母の存在を表現した。しかし母を表現しようとした。

感想など 今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど
 今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど。今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど。

ところが、しんせきの人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちに食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行っただけではなかったのです。引っ越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くるりと後ろを向いて帰りました。そのときの顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。でも悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。



作品の解説 母を表現したが、そのためにどんな鉛筆の技法・効果を使ったか
 教科書の行目線や定規の目線や定規の母もせきに描きこいた時の気持ちを表現した。また母の顔の下の部分に描きこいた母の母は母を悲しめて泣きたい気持ちを表現した。また母の顔の下の部分に描きこいた母の母は母を悲しめて泣きたい気持ちを表現した。

制作の流れ 作品制作が進む中で変化したこと、どう変化したか
 最初は女の存在を表現した。しかし母を表現しようとした。また母の存在を表現した。しかし母を表現しようとした。また母の存在を表現した。しかし母を表現しようとした。

感想など 今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど
 今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど。今回の授業を通して考えたこと、感じたこと、学んだことなど。

僕の父は戦争に行っていました。太平洋戦争の真っ最中です。空襲といって、アメリカのB29という飛行機が毎日のように日本に爆弾を落とすにきました。夜もおちおち寝ていられません。毎晩、防空壕という地下室の中で寝ました。

(3) 作品展示による ESD の視点の意識付け

2つの教材の完成した作品は、「ESDの視点に立った学習活動の意図」についての解説とともに展示発表を行った。「切り紙で表現する“環境問題”」については「環境問題に対する理解」と「様々な教科とのつながり」についての意識付けを図り、「鉛筆で表現する気持ち“おとなになれなかった弟たち

に」については、「反戦平和に対する関心」と「様々な教科とのつながり」についての意識付けを図った。校内における美術室前廊下の展示とともに、金沢 21 世紀美術館で開催された「金沢市小中合同展」においても展示し、広く一般の方たちへの啓蒙も行った。



美術室前廊下での展示（左が切り紙，右が鉛筆画）

金沢 21 世紀美術館での展示

5. 成果と今後の課題

実践例は、第 3 章で示した 4 つの「学習内容とつながり」ABCD のうち A と B にあたる。美術科における教科の目標は、豊かな感性や情操といった心の働きの育成と、基礎的・基本的な知識・技能の育成の大きく 2 つである。作品制作などの表現活動においては、制作のテーマや題材（今回は「環境問題」と「おとなになれなかった弟たちに……」）についての知識習得は教科の主たる目標ではない。しかし、生徒の関心意欲が高いテーマや題材を単純に選ぶだけでは、ESD はもちろん、言語に関する能力の育成や、思考・判断・表現の能力の育成にはなかなか結びつかない。教科の目標を抛り所に、学習活動における具体的な目標をしっかりとった教材を設定し、その基盤の上に、求められる課題の実現を図らなければならないだろう。そのためには、制作のテーマや題材の設定が非常に重要になる。

そうした意味で今回の 2 つの実践は、非常に興味深いものだった。3 年生の「切り紙」では、形の単純化や色彩の構成、紙を切り、糊を塗り、貼り付けるといった基礎的な知識・技能の習得と活用を学習活動の中心に置いた上で、環境問題に対する意識の向上を図り、1 年生の鉛筆画では、鉛筆の基礎的な技法や表現効果を習得、活用しながら、国語科の題材である「おとなになれなかった弟たちに……」の世界について、深く考えることにつながられたように思う。

今後は、今回の成果を改善しながら ESD の視点に立った学習活動を継続するとともに、4 つの「学習内容とつながり」の残り 2 つの取り組みについても実践を行う予定であり、そのための環境設定や準備を行っていきたいと考えている。